

研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake in middle age and risk of cardiovascular disease and mortality : accounting for intake variation over time 中年の飲酒と循環器疾患のリスク及び死亡率：時間経過中の飲み方の変化に着目した検討	
執筆者	
Emberson JR, Shaper AG, Wannamethee SG, Morris RW, Whincup PH	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol 2005 May 1; 161(9):856-63	
キーワード	
アルコール摂取様式の経時変化、循環器疾患、全死亡	
要 旨	
<p>中年英国人男性を、1978年から1998年、もしくは1980年から2000年の各20年間、飲酒様式を定期的に調査しながら追跡した研究。結果指標は循環器疾患発症と全死亡。調査開始時の飲酒様式に基づいて解析したところ、循環器疾患罹患と全死亡は、軽度飲酒の人が最も低くなり、非飲酒者と多量飲酒者が同程度高くなるようなU字型の分布をとった。しかしこのデータを、時間経過に伴う飲酒様式の変化で調整したところ、非飲酒者のリスクは下がり中等度または多量の飲酒をしている人のリスクは上がった。機会飲酒の人に比べ、定期的に多量に飲酒する人は、冠動脈疾患罹患では74%、脳卒中罹患では133%、全死亡では127%のリスク上昇がみられた。</p>	